

# 城辺字西里添ユナムダキの年間祭祀

新垣則子、佐藤宣子、本永 清

ユナムダキ (junamdaki) は、城辺字西里添を形成する小集落の 1 つで、行政上は西<sup>にしちゅう</sup>中に属する。2017 年 10 月末現在、世帯数 42 戸、人口 82 名である。全体として農家の数が多く、主要な換金作物としてサトウキビ、タバコなどを栽培している。

私たちは 2015 年 3 月 26 日 (木)、ユナムダキ在住の謝敷正市さん (大正 13 年 10 月 10 日、ユナムダキ生まれ) をご自宅に訪問して、同集落の年間祭祀について聞き取り調査を行った。

謝敷さんのお話によると、ユナムダキでは過疎化や住民の高齢化に伴い、5 年前から一部の祭祀を除いて、ほとんどの祭祀を実施していないということであった。それでも謝敷さんは、ふるさとの年間祭祀に関する記憶は鮮明で、私たちの質問にいろいろと詳しく答えて下さった。また後日、私たちは元神女で、謝敷さんの妹に当たる荷川取竹 (昭和 8 年 5 月 10 日生まれ) さんをご自宅に訪問して、補充調査も行った。

本報告は、そうした調査を経て、ユナムダキの年間祭祀についてその大要をまとめたものである。文章の記述は、現行時の 5 年前にさかのぼり、現在形で進めることにした。

## 1. 拝 所

ユナムダキには、小集落レベルで拝む御嶽にアカドウヌ (aka-dunu 赤殿)、ビマル (bimaru 語義不明)、ミルク (miruku 弥勒) の 3 か所がある。かつてのカンジャーヤー (kandža:-ja: 鍛冶屋) 跡も、今日拝所化されており、小集落レベルで拝んでいる。

各拝所には、神の在所あるいは他の拝所への遥拝所を示す小施設があつて、これを人々はイビ (ibi 威部) と称している。拝所によって、イビは一つであつたり、複数であつたりする。またイビの上に、これはイビシ (ibi-ji 威部石) と称する霊石を 1 個、あるいは複数個、安置することもある。イビシは神体あるいは神を拝むときの目印とされる。イビシの前に、香炉を並置することもある。

### (1) アカドウヌ御嶽

イビ①主神アカドウヌ (aka-dunu 赤殿) を祭る。同神は、ンヌツニー (nnutsi-ni: 命の根) とも称し、人間の生命を司る。

イビ②ヤマトウガム (jamatu-gam 大和神) を祭る。同神は、学問を司る。

イビ③ムマティダ (mma-tida 母天太)、ウヤティダ (uja-tida 父天太) の夫婦神を祭る。

ムマティダは母なる存在の神、ウヤティダは父なる存在の神。

イビ④リュウグ (rju:gu 竜宮) の神を遥拝する。

## (2) ビマル御嶽

イビ①主神ビマルガム (bimaru-gam 語義不明+神) を祭る。同神は、フファクヤキカム (ffa-kujaki-kam 子を乞い受ける神) とも称し、子供のできない夫婦に子宝を授ける。

イビ②リュウグの神を遥拝する。

## (3) ミルク御嶽

イビ①主神ミルクガム (miruku-gam 弥勒神) を祭る。同神は、ミルクユーヌヌス (miruku-ju:-nu-nusi 弥勒世の主) とも称し、世=豊穰を司る。

イビ②ミズヌヌス (midzi-nu-nusi 水の主) を祭る。同神は、水を司る。

## (4) カンジャーヤー跡

イビ①主神カンジャーヌカム (kandza:-nu-kam 鍛冶屋の神) を祭る。同所では、かつて農具のヘラや鍬などを製作していたと伝える。

## 2. 神 役

ここでは、ユナムダキの小集落を代表して、各祭祀で中心的役割を果たす人々を広く神役と呼ぶことにする。

神役には、御嶽祭祀を司る女性のサス (sasi 語義不明) と、これは小集落レベルの祭祀を司る男性のサズ (sadzi 佐司) がいる。

### (1) 女性神役 (神女) のサス

アカドゥヌ、ビマル、ミルクの各御嶽に、女性神役のサスが、それぞれ一人ずつ配置されている。以下、この女性を神女と呼ぶことにする。

さて、神女サスは各自、その管轄する御嶽の各祭祀で、線香と供物を司り、祝詞を唱えて祈願する。特に任期の定めはないが、現サスが例えば辞意表明をした場合に、戸主たちが協議して次期サスを選出する。

### (2) 男性神役のサズ

ユナムダキでは、御嶽祭祀とは別に、小集落レベルでも3つほど祭祀を行っている。その中心的な担い手が、男性神役のサズで、これはユナムダキに1人いる。

さて、男性神役のサズは、小集落レベルの各祭祀で、原則として全戸から出た戸主たちに同行してもらって、いろいろと所定の儀礼をとり行う。ユナムダキは現在、西中行政区を構成する10班のうち5班を占めるが、各班周りでその年のサズを出すことになっている。任期は一年。

### 3. 年間祭祀

ユナムダキでは、小集落レベルで年間13もの祭祀をとり行っている。ここでは便宜上、これらの年間祭祀を、(1)神女サスを中心とした御嶽祭祀、(2)男性神役サズを中心とした小集落レベルの祭祀、(3)その他に大別して、それぞれ記述する。

#### (1) 御嶽祭祀

ユナムダキには、既述のようにアカドゥヌ、ビマル、ミルクの3つの御嶽がある。各御嶽で行う年間祭祀は、それぞれ共通して9つである。ただし、各御嶽ではその祭日が異なるため、住民としては年間27もの御嶽祭祀と直接に関わる計算になる。各御嶽で共通の年間祭祀は、次の通り。

- ① タティバン (tati-ban 起て番) : 旧3月。年始めの祈願。
- ② ムギブーイ (mugi-bu:i 麦祝い) : 旧3月。麦の収穫祭。
- ③ ムーブーイ (m:-bu: i 芋祝い) : 旧5月。芋の豊作祈願。
- ④ アーブーイ (a:-bu: i 粟祝い) : 旧5月。粟の収穫祭。
- ⑤ ユースダミ (ju:-nu-dami 世の矯め) : 旧6月頃。世矯めの祈願。
- ⑥ ンカインナフキャ (njkai-nnafkja 迎え+語義不明) : 旧9月頃。豊穰神を迎える祭祀。
- ⑦ ウマツダスキ (umatsi-dasiki 火の助け) : 旧9月～同10月頃。火災防止の祈願。
- ⑧ ウヤギンナフキャ (ujagi-nnafkja 送り+語義不明) : 旧11月頃。豊穰神を見送る祭祀。
- ⑨ トゥスヌバン (tusi-nu-ban 年の番) : 旧12月中に、吉日を定めて実施する。年納めの祈願。

アカドゥヌ御嶽では、各祭祀を「きのえとら」の日に実施する。ビマル御嶽ではアカドゥヌ御嶽の祭日の翌日、つまり「きのとう」の日に、ミルク御嶽ではアカドゥヌ御嶽の祭日から10日後、つまり「きのえね」の日に、それぞれ各祭祀を実施する。

各御嶽とも、その実施する年間祭祀の内容と手順は、ほぼ共通している。各祭祀で、同じ

内容の儀礼が、同じ手順でくり返される。

- ① 各イビに、神女サス<sub>ス</sub>がアンナイゴー (annai-go: 案内香) を 12 本立てて、各祭神に祭祀の案内をする。
- ② 神女サス<sub>ス</sub>が、各家庭からキナイゴー (kinai-go: 家庭香) と称し、線香を取り集める。線香の数は原則 12 本に、家族の人数分 (1 人当たり 3 本) を足す。また、家族の一員に何か目出度いことがあれば、その祝いの線香 12 本も出す。
- ③ 各家庭から供物が寄せられるので、神女サス<sub>ス</sub>はその供物を受け取って、主神のイビの前に順次並べて飾る。供物の内訳は、次の 5 品である。
  - ・アライグミ (arai-gumi 洗い米) : 洗米。ただし、現在は洗わないで、白米のまま小皿にのせて飾る。
  - ・マースグパン (ma:su-gupan 塩+語義不明) : 小皿に白塩を盛って、その上に小さくサイコロ状に切った白豆腐を数個のせて飾る。
  - ・ジューバクヌスタウイ (dju:baku-nu-sita-ui 重箱の下上) : 重箱の中に、小豆ご飯、野菜料理、白豆腐の煮つけ、魚料理の 4 品を詰めて飾る。現在は各人とも忙しいため、料理の手間を省いて、お菓子を代わりに持参する者が多い。
  - ・サリイユ (sari-izu 干し魚) : 現在は小皿に煮干しをのせて飾る。
  - ・ンキ (nki 神酒) : 現在は米の神酒を容器に入れて飾る。神酒の代わりに、泡盛を持参する者が多い。
- ④ 神女サス<sub>ス</sub>が、主神のイビにキナイゴーを焚き、祝詞を唱えて祈願する。その後から、各家の戸主や主婦たちが自席で、手を合わせて祈願する。
- ⑤ 祈願が終わると、神女サス<sub>ス</sub>が、これはウイ (ui 上) と称して、神前の各供物から神々への分け前を少しずつ取る。ウイは、各イビに運んでその前に納める。ウイを取った残りは、そのまま主神のイビの前に残す。
- ⑥ この後、直会 (なおらい) に移り、みんなで歌い踊ったりして遊ぶ。

## (2) 小集落レベルの祭祀 (あるいは行事)

ユナンダキでは、御嶽祭祀とは別に、小集落レベルでスマフサラ (sima-fsarja 島腐らし)、イムザニツ (im-dzanitsi 海 3 日)、ムスムルム (musi-murum 虫忌み) という 3 つの祭祀をとり行う。これらの祭祀では、各戸から一人ずつ、主に男性たちが出て、男性神役のサズ<sub>ズ</sub>を中心に、所定の儀礼をとり行う。

- ① スマフサラ

粟の収穫祭アブーイを済ませた後、旧5月から同6月頃に、自治会の班長たちで日にちを調整して、この祭祀を実施する。疫病を運ぶ厄神などが小集落内に侵入しないようにとの祈願である。

まず祭日の午前中に、男性たちがアカドゥヌ御嶽を拝む。これには、同御嶽の神女サスに同行してもらう。

その後、集落はずれのどこか広場へ移動して、男性たちが豚を一匹屠殺する。

豚肉は各戸に平等に分配する。

豚の骨は細く砕くとその1つを取って、適当な長さの左縄に挿し挟んで、これを所定の数だけ作る。豚の骨を差し挟んだ左縄は、小集落の出入口に当たる各所定の場所へ運ぶと、その路上で1本ずつ、道路を遮るようにして宙に吊す。左縄の両端は、道路脇の立木にそれぞれ結ぶ。その際、男性神役のサズが、その立木の傍に供物（洗米、塩、酒）を飾って線香を焚くと、簡単な祝詞を唱えて魔除けの祈願をする。左縄を吊す場所は、小集落を囲んで4、5カ所である。

こうした儀礼を済ませた後、男性たちが公民館の庭に移動し、豚肉を調理して酒宴を催す。

## ② イムザニツ

かつては旧3月3日に行う祭祀であった。現在は旧5月から同6月頃に、自治会の班長たちで日にちを調整して、この祭祀を実施する。海のレクリエーションである。

当日は朝早く、アカドゥヌ御嶽へその神女サスが出向いて拝む。一方、男性神役のサズが北の海まで行って、渚に供物（洗米、塩、酒）を飾ると線香を焚いて、大漁と海の安全を祈願する。

午前中は、男性たちが一斉に海に入り、魚や蛸を獲ってくる。

この日の獲物は、ユナムダキの小集落へ持ち帰ると、男性たちがイーニャークガヤー (i:nja:-kuga-ja: 西の家+語義不明+家) という民家の前の路上に集まり、調理して酒宴を開く。この民家の前を会場に選ぶ理由は、ここの先代の主人が漁師であったこと、みんなに賄うだけの大量の魚を調理できる大鍋をこの家が所有していることによる。

## ③ ムスルム

旧6月に、自治会の班長たちで日にちを調整して、この祭祀を実施する。虫の忌み、つまり虫払いの行事である。

当日は、各戸から戸主たちが、自分の畑から農作物に害を及ぼすバッタやコオロギ、カタツムリなどを捕獲すると、ユナムダキ背後の高台ムスルム嶺に持ち寄って、皆で取りまとめて焼く。その際、男性神役のサズの先導により、「害虫を、私の畑に入れないで下

さい」とか、「私の畑の作物に、虫の口をつけないで下さい」とか唱えて、一斉に祈願する。この祭祀で、酒宴は開かれない。

### (3) その他の祭祀

上記(1)、(2)の祭祀のカテゴリーに入らない祭祀に、フーツキョーカ (fu:tsiki-jo:ka 霜月 8 日) がある。旧 11 月 8 日に拝所カンジャーヤー跡で、各戸から代表者が一人ずつ出て、鍛冶の神に農具のことで感謝を表して祈願する。

カンジャーヤーには、かつて専属の神女サス<sup>サス</sup>がいて、その女性を中心にフーツキョーカを行っていたが、現在ここに専属のサスはいない。

【参考文献】謝敷正市著『宮古島市史資料 6 ユナンダキズマ むかしの暮らし』（宮古島市教育委員会刊、2015 年）

【謝辞】私たちの聞き取り調査に快く応じて下さった謝敷正市さん、荷川取竹さんのご兄妹に心から感謝申し上げます。

また、自治会長の宮国京子さんからは、ユナムダキの戸数と人口について教えてもらいました。宮国さんにも心から感謝申し上げます。

(文責：本永 清)